

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた  
カリキュラム・マネジメントの確立

研究指定・委嘱校(地域) みやこ町教育委員会 ( 豊津小学校 ・ 豊津中学校 )  
筑前町教育委員会 ( 三輪小学校 ・ 三輪中学校 )

研究の目標

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進や、教育課程を軸とした学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」を究明する。

研究の内容

- 視点1：主体的・対話的で深い学びを具現化するカリキュラム・マネジメント
- 視点2：カリキュラム・マネジメントを機能化する校内体制の構築

研究の実際 ■ 視点1：主体的・対話的で深い学びを具現化するカリキュラム・マネジメント

★ みやこ町教育委員会(豊津小・豊津中)

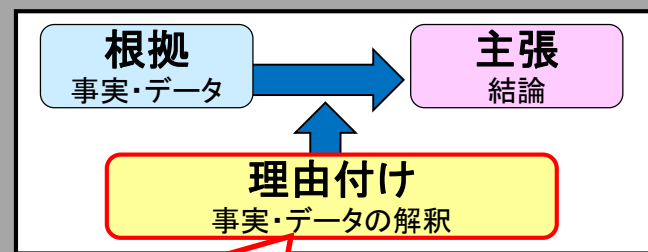
「豊津スタンダード」を位置付けた学習過程、「思考モデル」を取り入れた授業展開、「振り返りシート」を活用した振り返り活動の工夫、「評価のものさし」を取り入れた評価の工夫を、小・中学校で共通して進めました。これらにより、全教科等において育成を目指す資質・能力の重点化や指導方法の検証改善が図られ、目指す姿の実現に向けたカリキュラム・マネジメントが確立されました。

【豊津小・中学校が目指す姿】

論理的に思考する児童・生徒	
中3	根拠に既有知識を結び付けて、合理的な解釈ができる
中2	複数の情報を関連付けて考えることができる
中1	根拠を明確にし、筋道を立てて考えることができる
小5・6	根拠を基に考えることができる
小3・4	根拠を基に考えることができる
小1・2	わけを考えることができる

学年ごとに目指す姿を明らかにし、9年間で「論理的に思考する児童・生徒」の育成を目指す

【思考モデル】



特に、「理由付け」に着目し、交流の機会を設けることで、考えのよさに気づき、思考が広がったり深まったりした。

「何ができるようになったらよいか」を把握したり、自身の学びをメタ認知したりすることで、自己調整しながら学習を進めることができるようになった。

【豊津スタンダード】

学習過程を共有することで、授業改善・学習改善の視点を明確にできた。

段階	活動
見通しをもつ	学習の動機付けを行う 解決に向けた見通しをもつ
考えをもつ	「思考モデル」を用いて理由付けを明らかにする
考えを広げ深める	理由付けを説明し互いに交流して、考えを再構築する
考えを振り返る	学びを振り返って、学びの自己調整を図る

小・中学校共通の学習過程による授業づくり

【授業評価・振り返りシート】



「参観者の評価」と「児童生徒の振り返り」のズレを基に次時の授業について検討することで、指導と評価の一体化が図られた。

【『評価のものさし』とは・・・】

見通しをもつ段階では、児童生徒に学習のゴールをイメージさせ、また、終末段階では、自己の学習を振り返るための評価規準を基にした『基準』を設定したものを。

★ 筑前町教育委員会(三輪小・三輪中)

9年間を通して育む児童生徒の姿の具現化に向け、「学習過程」や「手立て」を統一し、問題解決的な学習における4つの活動で構成した授業づくり(三輪スタンダード)等の取組を進めました。この取組によって、学びを実感し、他の場面で生かそうとする児童生徒の姿が見られるようになり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けたカリキュラム・マネジメントが確立されました。

【小・中学校共通の学習活動「三輪スタンダード」】

三輪スタンダード		
活動	内容	教師の支援
問いや見通しを持つ活動	大事なキーをもとに解決方法や答えの見通しをもつ。既習と比較し、相違点や共通点から問いや学習課題をつくる。	・見通しにつながる大事なキーの提示 ・課題をつかむための思考パターンの選択
考えをつくる活動	構成図や考えをつくり、つながりや理由を説明する。主張・根拠・理由付けを明確にして自らの考えを形成する。	・主張、根拠、理由付けを明確にする話型の提示 ・図や言葉、式等をつなぐノートの工夫
考えを再構築する交流活動	新たな問題資料(発問)について考えを再構築する。共通点、相違点で考えを交流する。	・意図的指名による考えの共有化 ・再構築に向けた資料、新しい問題、発問の工夫
学びを振り返る活動	本時で有効であった学び方を記述する。単元を通した学びを振り返る。	・自己評価のモデル提示

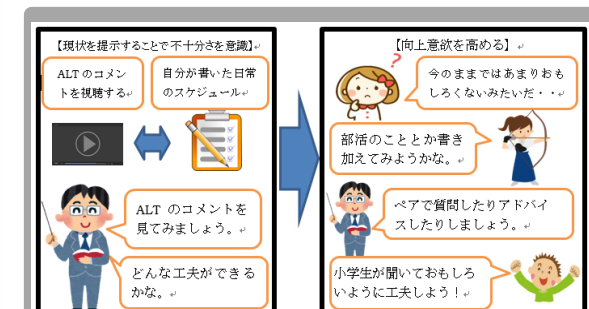
小・中学校で学習過程、学習活動、手立てを統一し、主体的・対話的で深い学びを推進

【年間カリキュラム表】

教育目標	めざす子ども像	三輪スタ
国語	既習をもとに課題解決への見通しを持つことができる 本時の学習内容や方法を理解して書くことができる	めざす子ども像に近づくための資質・能力を高めると考える単元等
社会	問題発見・解決能力の育成を目指し、小学校は学期に5単元、中学校は1単元の重点単元を設定 ※黄色部分が重点単元(小学校の例)	
算数		

【三輪中学校:問いや見通しをもつ活動】

- 既習内容では解決できない場面を提示し、追究意欲を高める
- 事象の変化を提示し、その理由への関心を高める
- 現状を提示し、不十分さを意識させ、向上意欲を高める
- 目指す姿(ゴール像)を示し、活動の見通しをもたせる

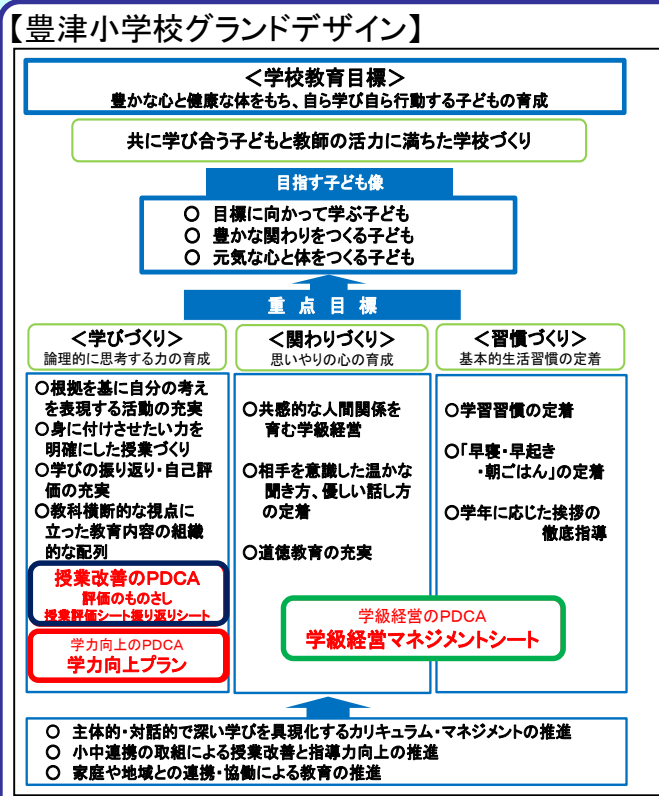


(中1英語の例)

研究の実際 ■ 視点2：カリキュラム・マネジメントを機能化する校内体制の構築

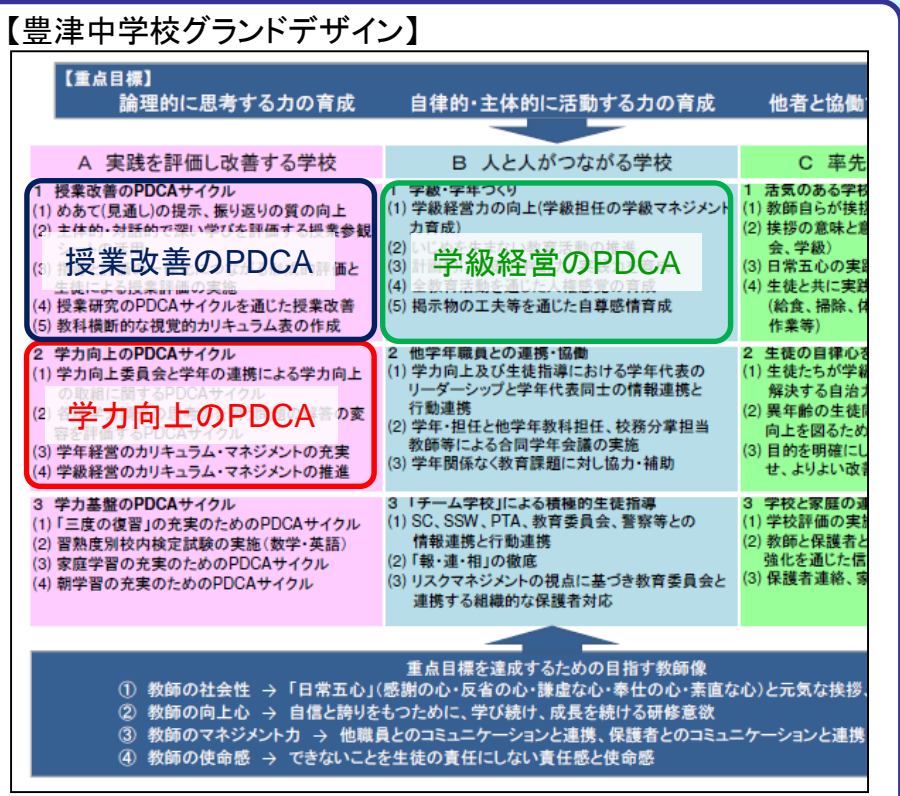
★ みやこ町教育委員会(豊津小・豊津中)

教育内容の質の向上を図る検証改善サイクルの確立と、小・中学校で共通した研究推進体制の確立を行うことで、カリキュラム・マネジメントの機能化を図りました。グランドデザインを通して全職員が重点目標達成のための戦略を共有・実践することで、「授業改善」「学力向上」「学年・学級経営」のPDCAサイクルが意識され、教科や学年の枠を超えて協働し、つながることができるようになりました。



【3部会における検証改善サイクル】

	マネジメント部会	授業づくり部会 (授業改善担当)	評価づくり部会 (学習改善担当)
授業構想 P段階	・ 研究構想に則った授業構想になっているかを確認 ・ 授業づくり部会と評価づくり部会の授業を見る視点を確認	・ 授業における豊津スタンダード(学習指導過程)の有効性の検討	・ 評価規準の検討 ・ 評価のものさしの基準の妥当性の検討 ・ 見取りの場面の検討
授業実践 D段階	・ 研究構想の視点から授業参観を実施	・ 授業評価シートを用いた授業参観	・ 授業評価シートを用いた授業参観
授業改善 C段階	・ 研究構想に則った改善点を協議	・ 授業評価シートを基に、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について改善点を検討	・ 授業評価シートを基に「評価のものさし」の提示、「評価のものさし」の効果について検討
授業再構築 A段階	・ 協議会で話し合われた改善点をまとめ、次時以降の授業を構想	・ 授業評価シートの改善点を基に修正 ・ 「思考モデル」を使った授業展開について改善点を全職員で共有	・ 授業評価シートの改善点を基に授業を修正 ・ 評価のものさしの改善点を全職員で共有

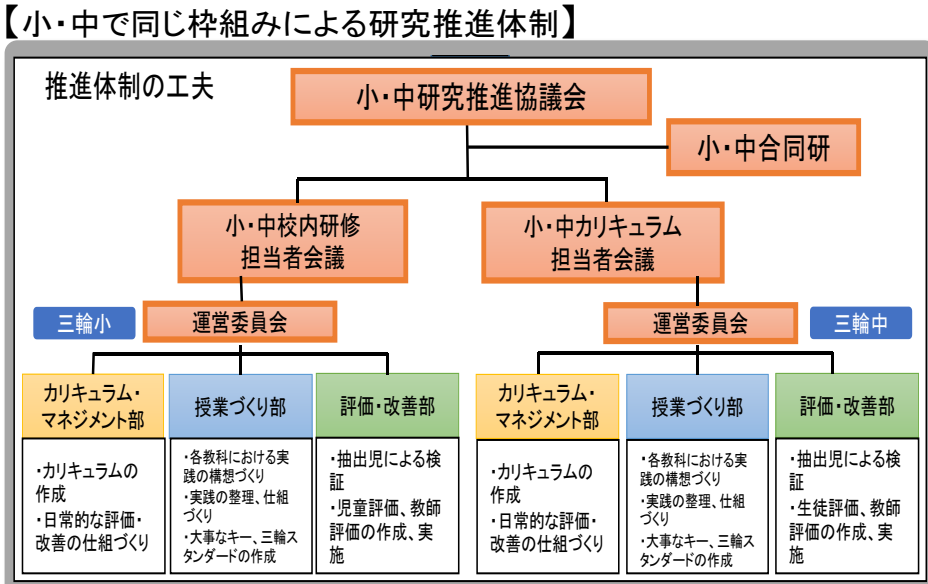


小中ともにグランドデザインを基に各部会で検証改善

『学力向上』『授業改善』『学年・学級経営』の取組において、各部会で小・中学校が連携できる組織体制を構築したことで、教育内容の質の向上を目指す取組が実現した。

★ 筑前町教育委員会(三輪小・三輪中)

小・中で同じ枠組みによる研究推進体制にし、すべての職員が各部に所属して目的を共有し、各チームを中心に活動内容を明確にした取組を進めることで、研究への協働的な意識が高まりました。また、三輪スタンダードを小・中学校で協議しながら構築し、共有したことで、児童生徒を9年間で育てるという意識も向上しました。さらに、授業づくりにおけるPDCAサイクルの流れが明確にでき、これからの取組の基盤ができました。



【活動の実際】

4月 小・中研究推進協議会    4・5月 校内研修会    6月 小・中校内研修担当者会議    10月 小・中合同研修会

小・中カリキュラム担当者会議

研究の内容や研修会の進め方について協議。

重点課題の構想に基づいた授業公開及び協議。

授業づくりの構想、各校の進捗状況をもとに構想の見直し。育成すべき資質・能力についての協議。

三輪スタンダード等の手立ての有効性について協議。

小・中学校共通の部会制で研究を進めることで、小・中学校の先生方が共通の役割意識のもと協議等を進めることができた。

研究構想の立案から実践、結果の分析・改善までの検証改善を小中が連携して実施